

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	早稲田大学	整理番号	N02
プログラム名称	リーディング理工学博士プログラム		
プログラム責任者	須賀 晃一	プログラムコーディネーター	朝日 透

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、修了要件単位のうち約 6 割の単位に係る科目が英語で提供され、海外大学・企業へ計 6 か月に渡り長期に派遣されることが課されるとともに、大学において、国内外の企業からのコンサルティング教員、外国人教員の副指導教員及び企業出身メンターを招いた実践を重視した直接指導が実施され、グローバルな連携体制の下で学位審査や実践教育が行われた結果、学生の大きな成長に結びついたことは高く評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、上記プログラムと指導体制が、キャリアパス構築にも大きな役割を果たし、本プログラムの修了者の約 66%が民間企業に就職するという高い実績を残した。学生の自主性を育む仕掛けにより、異分野専攻の学生同士で共同研究テーマを立ち上げ、学年や分野を超えたネットワークで学生自主企画のシンポジウム等を数十件実施し、国際コンテストにも出場して受賞するなど、たくましい学生が育っている。分野横断型の 5 年一貫の先進理工学専攻への入学が、学生のキャリア意識を高める大きな役割を果たした。このような学生の成長は、当初計画を上回る成果であり高く評価できる。

事業の定着・発展については、学長が推進する Waseda Vision 150 の下、理事会の責任において先進理工学専攻を本プログラム発足の初期段階で創設し、支援期間終了後の自走体制を確立するとともに、5 年一貫教育が全学にも広がり、本プログラムで教育効果が認められた副指導教員制度、学生自己評価ポートフォリオなどが、全学的システムとして既に展開され、大学改革につながっていることは評価できる。さらに、大学独自予算、寄附金の相当額の投入を決定し、当初を上回るプログラムの定着・発展が着実なものとなっていることは高く評価できる。今後は、本プログラムの魅力を広く学内外に認知させる取組を一層強化し、留学生を含めた充足率を高め多様性に富んだ教育環境を整備することによって、グローバル社会のエネルギー課題を解決するグローバルリーダーを輩出する世界に冠たる教育プログラムへと発展するものと期待する。